＜文学部改革の詳細＞

①「国際コミュニケーション学域」、「言語コミュニケーション学域」の2つの学域を新設

●英語圏地域の文化を学び、英語の多様性と奥深さを極める「国際コミュニケーション学域」

→「英語教育の充実」、「約半数の専門科目で英語による授業実施」、「短期留学生との共修科目を倍増」、「卒業論文は英語で執筆」

・英語圏地域を中心に、文化や民族の摩擦と共存、多文化環境での集団と個人について横断的に学ぶ。

・最新の理論を用いた英語教育の研究と学校英語教育に必要な実用的な知識と技術を身につけた高い質の英語科教員の輩出。立命館大学で英語科教員の免許が取得できるのは文学部のみ。

●ことばとコミュニケーションに関わる多様な問いを探究・実践する「言語コミュニケーション学域」

→「コミュニケーションについて実践的に学ぶ」、「日本語教員養成プログラム」、「“ことば”の理解と体験」

・小説やアナウンス、広告などの言語表現も含む、「コミュニケーション」を軸とした多様な分析と実践。

・異文化間コミュニケーションの考えに基づいた「日本語」を「外国語」として学ぶ人への日本語教員を養成。

・日本語教員資格と国語科教員の免許を得ることで就職先の幅も拡大。立命館大学で国語科教員の免許が取得できるのは文学部のみ。

②「西洋史学専攻」を「ヨーロッパ・イスラーム史専攻」に、
「日本文化情報学専攻」を「日本語情報学専攻」へ2つ専攻を改編

●ヨーロッパとイスラームの歴史からグローバル社会の未来を構想する「ヨーロッパ・イスラーム史専攻」

→「ヨーロッパ」と「イスラーム世界」の関係を歴史の観点から横断的・重層的に学ぶ

・交流と対立を繰り返してきた 2 つの文明圏を通して、現代世界の成り立ちや構造を幅広く考察し、人間社会の多様性や可能性を探究する。

・歴史的視野を広げることで、現代のグローバル社会に敏感に対応できる力の育成と、異文化への深い洞察力・豊かな創造力を身につける。

●情報技術を駆使した「日本語の多様性」と「現代における図書館の役割」の探究する「日本語情報学専攻」

→情報技術を駆使して「日本語」と「図書館」をテーマに学ぶ

・1000 年以上の長い歴史を持つ日本語の変遷と「コーパス」(大規模な言語のデータベース)を用いた日本語研究。

・情報科の進む現代における図書館の役割の探究と図書館司書課程の開講。

③専攻横断型のクロスメジャーの新設

●京都の立地を活かした「京都学」とAIを見据えた「デジタル人文学」を新設

→全ての学域・専攻の 2 回生以上の希望者が「専攻の学び」＋「京都学」または「デジタル人文学」の科目を履修可能。

・自身の専攻の学びと京都の歴史や地理・文学などを複合した「京都学」が融合した、多面的な学びの実現。

・デジタル技術を活用したビックデータや精密な情報から人文学を探究する「デジタル人文学」を用いた研究の実現。

立命館大学文学部における「学域※1」と「専攻※2」の定義

・学域…複数の「専攻」を束ねた教育組織。入試の募集人数を「学域」単位で設定し、1 回生次に所属。
・専攻…2 回生以降に所属する教育組織。学生が 1 回生冬に専攻選択を行い、所属専攻を決定する。